

盲学校における情報処理教育改善のための提案 — 視覚障害者の自立と社会参加を助ける 情報処理能力習得へ向けて —

慶應義塾大学、SFC 研究所
中根 雅文

初めに

情報通信技術の急速な発展にともない、コンピュータやインターネットの利用者数は急速に増加している。このことにともない、インターネットを用いて提供される情報は、その多様性および量の面で豊富なものになってきている。また、利用者数の増大を受けて、安価かつ容易にあらゆる作業をコンピュータを用いて行うためのソフトウェアが次々と登場している。このような中で、コンピュータやインターネットを用いることができる能力は、社会生活を営む上で必要不可欠なものとなりつつある。一方、視覚障害者の間ではコンピュータの有用性が早くから注目されてきている。特に、社会一般におけるコンピュータの普及が進むにつれ、視覚障害者の間でもコンピュータの利用に関する興味が高まり、またその必要性に対する認識も強くなってきている。

しかし、実際に社会生活を営む上で必要となるコンピュータの利用能力を視覚障害者が習得することは、必ずしも容易なことではない。コンピュータを利用する能力が社会へ出て即座に役立つものであるという事実を考えると、盲学校などにおける初等・中等教育の過程での情報処理教育の重要性が高いことは明白である。この発表では、以下に挙げる点について紹介し、盲学校における情報処理教育をより良いものにするために必要と思われる事項を提案する。

1. コンピュータ・インターネットの有用性

まず、視覚障害者がコンピュータやインターネットを用いることによってどのような恩恵を受けることができるかという点について、具体例を交えて紹介する。コンピュータの利用目的として、大きく以下のように分類することができる。

- 円滑な情報取得

- 独力による文書作成
- 情報の共有

2. 視覚障害者のコンピュータ利用手段とその特徴

次に、視覚障害者がコンピュータを用いる上で必要となる技術について、その特徴を紹介する。(表1)

表 1: 視覚障害者のための技術とその特徴

音声出力	揮発性、直線性
点字出力	非即時性、断片的
拡大表示	鳥瞰図の欠落

3. 情報処理教育における問題点

次に、昨年行った盲学校における情報処理教育に関するアンケート調査の結果から、特に注目すべきものを紹介する。この結果に見られる、以下のような情報処理教育に関する問題について、具体例を交えて紹介する。

- 視覚障害者向け技術の特徴に関する理解の不足
- 視覚障害者の情報取得に関するよりよい理解の必要性
- コンピュータ技術に関する実用的情報の不足

4. 問題の解決へ向けて

最後に、これらの問題を解決するために考えられる以下のような方策について提案する。

- 専門知識を習得するための方策
- 情報交換を促進するための方策
- 視覚障害者のコンピュータ利用環境の向上に貢献するための方策

発表資料

この発表に関連する資料は、以下の URL で公開している。
<http://www.accessibility.org/~max/talks/200008-viep/>